

## (5) 島原半島地域づくりのきっかけづくりイベント

地域の人たちが楽しみながら、地域の魅力の向上や資源を守り育てていく、また、観光客がそうした取り組みに楽しんで参加できる、参加型の国立公園づくりや島原半島の地域づくりを推進する「きっかけ」となるようなイベントであり、同時に、島原半島に暮らす人々の一体感の醸成や、地域間交流の促進、情報共有を進めることで地域づくりの機運を高めるイベントとして実施した。

### 1) はだしで遊ぼう雲仙での「そうめん流し」

#### 【準備】

島原半島が一体となって取り組むきっかけとして、参加者はもちろん準備する側もみんなと一緒に楽しみながら、半島の魅力を体験しその大切さを共有できるイベントを前提として、島原半島ワーキングで内容を検討した。

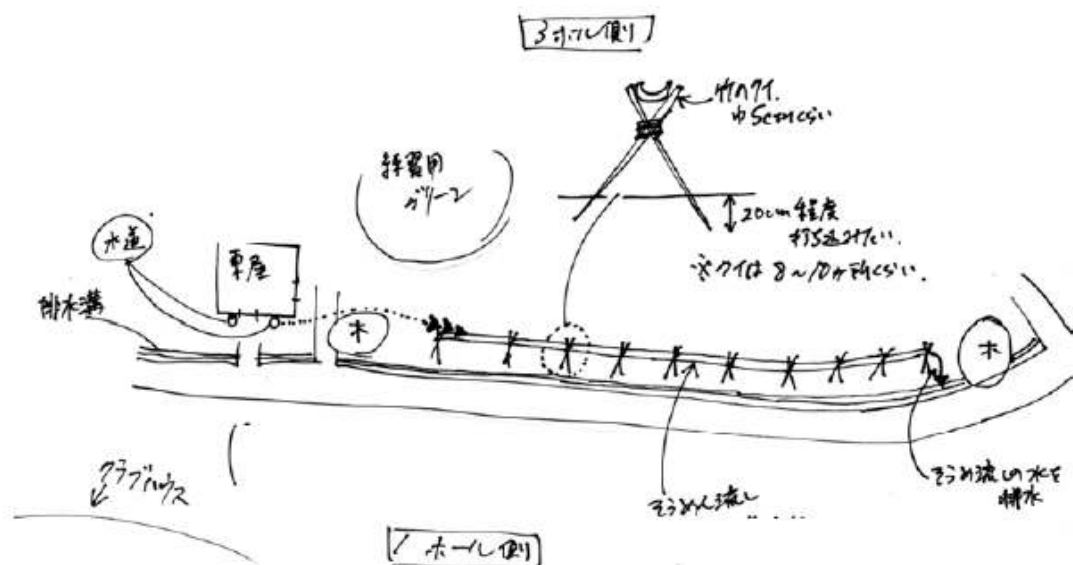
より多くの半島地域の人に参加でき、子どもたちに地元の魅力や環境のことを伝えられるイベントにしようという声が多く聞かれたことから、季節的なことや準備期間も踏まえ、島原半島の地場産品であるそうめんや景観整備も兼ね伐採した竹を活用した「そうめん流し」を、雲仙市で行われるイベント「はだしで遊ぼう雲仙」とのタイアップイベントとすることなどを決めた。

イベント内容決定後、島原半島ワーキングメンバーで次の準備を行った。

- ・そうめん流しの竹の切り出し
- ・竹の杭を前日までに削り出し
- ・そうめん流しの台の固定用のヒモや番線などの準備
- ・ホース、茹で鍋、ザル、ボール、ガス台セット、耐熱ボード
- ・そうめん、めんつゆ、カップ、割りばし、薬味（ネギ）、ゴミ袋
- ・テーブル、台ふきん
- ・準備、撤収用のトラックの手配

前日にそうめん流しの竹を 5m～10m分ほど設置し、当日は子どもたちとそのそうめん流しの竹をつなぐワークショップを行い、その後つないだ竹で、そうめん流しを行うこととした。

設置する長さは 10mくらいからワークショップ内でできる範囲で伸ばすこととし、午後の 13:30 くらいからワークショップをし（30 分くらい）、14:00 くらいからそうめんを流せるようにした。



そうめん流し計画

【当日】

実施日：2011年 8月 24日（水）

場 所：雲仙ゴルフ場

タイムテーブル：

10：00～	準備開始 11：30頃からそうめんを茹で始める
12：00～13：00	伐採したモウソウチクを使い、子供たちとそうめん流しのラインづくり
13：00～13：30	南島原市の山口忠宗氏がそうめんやそうめん流しについて紹介 島原半島ジオパーク推進連絡協議会事務局松尾純伯氏がジオパークの紹介やジオとそうめんの関係などを解説
13：30～14：00 14：30～14：50	2回に分けてそうめん流しを実施

結 果：

雲仙ゴルフ場「はだして遊ぼう」において「島原半島ワーキングそうめん流し」を実施。イベントでは、南島原市のワーキングメンバーが中心となって、伐採した竹を使ったそうめん流しのラインづくりを披露、天草から島原半島に訪れた子どもたちや「はだして遊ぼう」に集まった半島の子どもたちに竹を使ったラインの組み方を手ほどきしながら、40メートルに及ぶそうめん流しラインをつくりあげた。

その傍らで、南島原から参加した製麺業者の方などが、用意したそうめん9kgを大釜で茹で、薬味などを刻んで準備。準備が整う間、ワーキングメンバーでそうめん流しのエキスパートでもある山口氏が島原そうめんやそうめん流しについて、島原半島ジオパーク推進連絡協議会事務局の松尾氏がジオとそうめんとの関係などについて紹介し、参加者に島原半島の暮らしや成り立ちを伝えた。

そうめん流しは、13時過ぎから2回行われ、延べ300名以上に島原そうめんが振る舞われた。



子どもたちと竹でラインづくり



島原半島ジオパークについてのお話し



そうめん流しの様子



島原半島出身のルー大柴も参加し盛り上がる

### 【結果】

参加した子どもたちや保護者は、竹を使ったライン作りやそうめん流しなど普段できない体験に大喜び。南島原市の方も、雲仙市のイベントに参加し、南島原市の物産を広く参加者に紹介できたこと、また雲仙のワーキングメンバーとの交流も深まった。

その後も、南島原でのあるもの探しや雲仙の飲食店や旅館ホテルのメニュー開発などへの協力などが継続して行われている。

## 2) 島原半島・雲仙地域きっかけづくりモニターツアー

雲仙や島原半島でのあるもの探しを通じて、島原半島にはまだ活用されていない魅力ある資源が豊富にあることが認識された。また、それらの資源は、そこでしかできない体験や味わえない素材、癒し、知的観光といった市場が求めるニーズに十分こたえることができるものであると同時に、資源をつなぎ合わせることでより魅力を増すものでもあり、ワーキングメンバーを中心に確認した。

そこで、資源そのものや資源をつなぎ合わせたツアーを商品化していくための第一歩として、島原半島内3市において、各地域でこれまでに発掘された資源をベースにツアープログラムを組み立て、地域内外、幅広い業種の方に参加を求め、それぞれの立場から評価をしてもらうこととした。

地元にとっては資源の再認識や目玉商品の確認、資源の活用についての方向性や課題がみえてきたほか、半島内外の人が集まって互いの地域の資源を新たに知ったことで、半島が一体となりとりくむきっかけともなった。

### ① モニターツアーの企画と募集方法

島原半島ワーキングが中心となり、コース内容を設定するとともに、募集要項を作成した。告知及び募集は、シンポジウム開催の関連イベントとして雲仙プラン100プロジェクトHPへの掲載、3市の広報への掲載、新聞各社への投げ込み、ひまわりテレビでの広報、ワーキングメンバーを通じた声掛けを行った。

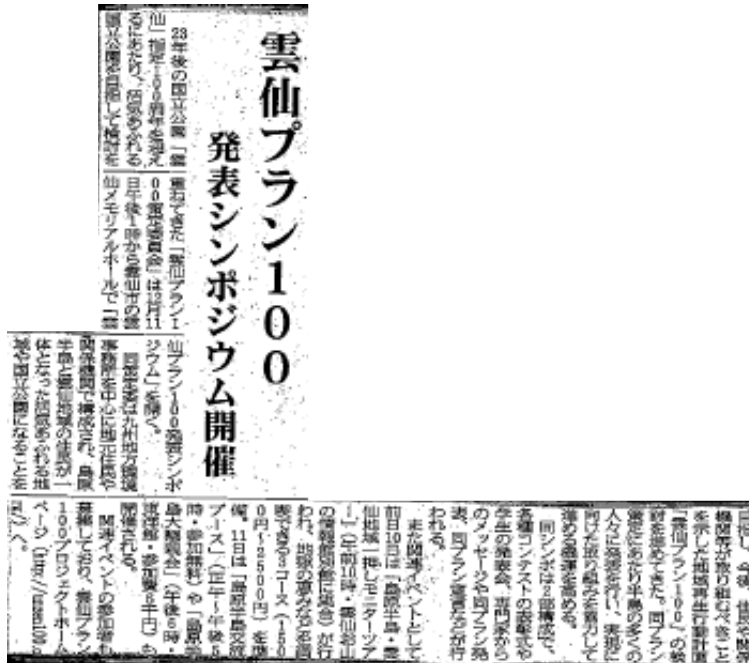


### 広報雲仙12月号

雲仙プラン100シンポジウム！  
日本で最初の国立公園・雲仙天草国立公園雲仙地域は、今年で77歳です。23年後には100周年を迎えることから、半島の若者たちが中心となって、23年後の地域の将来像を描き、その実現に向けた行動計画「雲仙プラン100」ができました。このプランを半島の皆さんに認知してもらうため、シンポジウム（環境省九州地方環境事務所主催）を開催します。半島をテーマにした楽しいイベントも同時開催しますので、ふるってご参加・出展ください。

● 12月11日(日) 午後1時～4時35分  
 会場：雲仙メモリアルホール  
 料金：入場無料（申込不要）  
 同時開催（参加費別途）  
 ○ 12月10日(土) 半島モニターツアー（有料）  
 ○ 12月11日(日) 半島交流ブース出展（無料）  
 半島大懇親会（有料）  
 ● 詳しくは、ホームページ  
<http://unzen100.org/>  
 問い合わせ・申込先  
 雲仙プラン100事務局  
 （熊毛県研究室内）  
 ☎0957-73-2224

### 広報南島原12月号



島原新聞 2011年12月1日



長崎新聞 2011年12月3日

② モニターツアー募集要項

a) 呼びかけ文

日本で最初の国立公園・雲仙天草国立公園雲仙地域は、今年で77歳。23年後には100周年を迎えることから、半島の若者たちが中心となって、23年後の地域の将来像を描き、その実現にむけた行動計画を「雲仙プラン100」としてとりまとめました。

その中で、島原半島の魅力を活用したツアー商品の開発を検討しています。今回のモニターツアーでは、「雲仙プラン100」のメンバーが考えた島原半島の一押しコースを体験していただき、ツアー内容や誘客方法についての評価をしていただきたいと思います。また、半島の皆様に広く参加いただき、地元を知るきっかけとして、ご利用いただけたら幸いです。

b) 開催概要

- 【開催日時】 平成23年12月10日（土）
- 【集合場所】 雲仙お山の情報館別館
- 【所要時間】 すべて5時間
- 【集合時刻】 午前10時
- 【解散時刻】 1時間程度の意見交換後、午後5時解散

【コース】 3市各1コース、全3コース

タイトル	参加費用 (昼食代等)	ツアー場所	定員 (先着順)
湯守が魅せる あなたの知らない地獄コース	1,500円	雲仙温泉街	15名
封印された歴史の真実 蘇るロザリオコース	1,500円	南島原市	15名
旧島原藩に学ぶ 薬草学と木蠟づくり体験コース	2,500円	島原市	15名

【交通手段】 現地集合・現地解散

【参加費用】 飲食費（昼食等）のみ参加者負担

c) 募集要項

島原半島・雲仙地域 一押しモニターツアー募集要項

各位

雲仙プラン100プロジェクト

日本で最初の国立公園・雲仙天草国立公園雲仙地域は、今年で77歳。23年後には100周年を迎えることから、半島の若者たちが中心となって、23年後の地域の将来像を描き、その実現に向けた行動計画を「雲仙プラン100」としてとりまとめました。

「雲仙プラン100」では、「島原半島が一体となった取り組みの強化」や「地域資源の掘り起こしと活用」を柱と考え、その中のひとつとして、島原半島の魅力を活用したツアープログラムの開発を検討しています。今回のモニターツアーでは、「雲仙プラン100」のメンバーが考えた島原半島の一押しコースを体験していただき、ツアー内容についての評価をしていただきたいと思います。また、半島の情様に広く参加いただき、地元を知るきっかけとして、ご活用いただけたら幸いです。

1. 開催概要

【開催日時】 平成29年12月10日(土)

【集合場所】 雲仙お山の情報館別館

【集合時刻】 AM10:00に集合をお願いします(ツアーによって移動があります。)

【解散時刻】 ツアー終了後は、各コースで意見交換や全体のまとめを1時間ほどさせていただきます。  
PM17:00解散となります。(終了後は、座談会もごさいますので是非ご参加下さい。)

【所要時間】 ツアーは3つのプランを用意していますが、すべて5時間コースとなります。

【コース紹介】

タイトル	参加費用 (昼食代等)	ツアー場所	定員 (先着順)
湯守が魅せる あなたの知らない地獄コース	1,500円	雲仙温泉街	15名
封印された歴史の真実 蘇るロザリオコース	1,500円	南島原市	15名
旧島原藩に学ぶ 薬草学と木蠟づくり体験コース	2,500円	島原市	15名

＜雲仙コース＞雲仙一押しの温泉や地獄蒸し料理など7つの地獄の恵みを満喫し、道中では湯せんべいや雲仙饅頭の秘密を探る。地元ならではの雲仙遊びをご紹介。

＜南島原コース＞日本を代表する文学者である遠藤周作が残したセミナーヨ、日野江城に関する作品を、実際に遠藤周作が登った古道を巡りながら回想するとともに北有馬町内のキリシタン史跡を訪ね日本史に残らなかった隠された歴史の真実を探る。

＜島原コース＞島原は古来より山とともに暮らしてきました。その生活の中で生まれた知恵が現在でも受け継がれています。薬草料理や和ろうそく作り体験を通して、島原の山の恵みを体感する。

## 2. 参加条件

### 【交通手段】

現地集合・現地解散となります。

### 【参加費用】

飲食費(昼食等)のみ自己負担をお願い致します。

参加ツアーは3コースを用意していますが、参加していただくツアーについては定員を決めさせていただいております。先着順となりますので、希望するツアー以外での参加をお願いすることがあります。予めご了承くださいませ。

### 【ご協力のお願い】

モニターツアー終了後に、簡単なアンケート調査へのご協力と、全体での意見交換会にご参加をお願い致します。また、ツアー中も調査員が簡単なインタビュー等を行いますのでご協力お願い致します。

### 【募集締切】

平成23年12月5日(月)締切とさせていただきます。



- ツアー内容の問い合わせ先:雲仙プラン100プロジェクトモニターツアー担当  
携帯 (市来勇人まで)

- お申し込み先:雲仙プラン100プロジェクト事務局(株式会社メッツ研究所)  
申し込み用紙に記入の上、出来るだけFAXにてお申し込み下さい。  
FAX03-3371-6245 TEL03-3371-6310(佐藤、菅まで)

## ③ 開催結果

各コースともに10名前後の参加者が参加。福岡に本社・支社等があるエージェントのほか、雲仙プラン100策定員会委員、ワーキングメンバー、一般参加者が参加した。

ツアー終了後は、お山の情報館別館において、コースごとに分かれ参加したコースの評価をまとめ、その後全体で意見交換を行い、商品化のに向けた課題等をまとめた。

a) 雲仙コース「湯守が魅せる あなたの知らない地獄コース」

【当日の流れ】

時 間	研修内容	場 所
10:00	<b>開会</b>	<b>お山の情報館別館</b>
~10:30	・主旨説明 ・1日の流れ	
10:30	<b>湯守のお話し</b>	<b>雲仙地獄</b>
~11:30	・雲仙温泉のお湯歴史 ・爛付場の仕組みや保守の方法 ・源泉が浴槽に入るまで ・湯守の苦勞話し	
11:30	<b>旧八万地獄で岩盤浴</b>	<b>旧八万地獄</b>
~12:00	・天然岩盤浴でポッカポカ	
12:00	<b>昼食&amp;エコタツ体験</b>	<b>旧八万地獄</b>
~13:00	・地獄蒸し料理 ・温泉玉子 ・お茶	
13:00	<b>地獄の恵みめぐり</b>	<b>雲仙温泉街</b>
~16:00	指湯 だんきゅう風呂 火山灰を使った焼き物 湯守の宿 湯元ホテル大浴場 湯せんべい見学 足湯 避暑地時代のお風呂	いわき旅館前 湯の里共同浴場 雲仙焼 湯元ホテル 遠江屋 足湯広場 雲仙観光ホテル
16:00	<b>意見交換会</b>	<b>お山の情報館別館</b>
~17:00		

雲仙地獄をテーマにしたコース。源泉が雲仙地獄から浴槽に入るまでの苦勞話や仕組み、雲仙地獄のエコ機能などについて、江戸時代から源泉を守り続けている「湯守（ゆもり）」の解説のもと、温泉に入る有難みを再認識することとなった。

また、火山の恵みである地熱を利用し旧八万地獄で岩盤浴を体験。約20分ほどの時間だが、寝てしまう人がいるほど心地よい時間を過ごす。その後、エコタツ（旧八万地獄に机を置いてふとんをかけ地熱を利用して暖まるこたつ）を設置し、雲仙地獄で蒸した温泉蒸し料理を食す。昼食後は雲仙温泉街にある共同浴場や湯守の宿のお風呂、指湯、足湯などさまざまな温泉を巡り、温泉巡りの途中では、温泉神社や満明寺、雲仙焼き、湯せんべい屋などをたずね歩き、魅力を発見した。





湯守による地獄と温泉の案内



旧八万地獄の岩盤浴



地獄蒸し料理



地元ガイド「さるふあ」と地獄・温泉街めぐり

【モニターツアー後の意見交換（参加者より）】

- ・エコタツや岩盤浴、地獄蒸しは期間限定かもしれないが、確実に売れる商品になる。旧八万地獄への誘導方法、ホテルの有料サービス（岩盤浴セットなど）、エコタツの楽しみ方などが課題。
- ・コースとしては、全員が「時間が長く、全体的に歩きすぎた上、同じ場所（地獄）を2回訪れたことは、精神的にも肉体的にもきつかった。」という感想を持っており、コースの見直しが求められる。
- ・ガイドの評価は高いが、案内できる人が限られており、ガイドの育成が課題。

下線は提案等

<p>良かったこと</p> <p>さらに良くするためのアイデア</p>	<p>○コース設定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いいタイミングで風呂に入れたと思う。</li> </ul> <p>○ガイドについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・代々「湯守」をしている加藤社長から直接案内してもらえたことが良かった。</li> <li>・「湯守」の話は、聞いて初めて知ることができた。知ること、風呂に感謝して入れるし、宿の値段にも納得できる。</li> <li>・雲仙のウォーキングマップがあった方が理解が深まる。</li> <li>・昔の写真や i-pad の活用は GOOD。もっと活用して、古い時代やツアー時には遭遇できない場面（地獄のパイプ掃除など）をみせてもらいながらガイドを受けるといいと思った。</li> </ul> <p>○地獄</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・源泉を知ると温泉がおもしろくなった。入る前に知ると良いですね。</li> <li>・源泉やパイプがどのホテルや旅館のものかわかるように表示すると、安心して温泉に入れるし、楽しめる。</li> <li>・爛付け場の中の仕組みが見えれると良い。</li> </ul> <p>○旧八万地獄で岩盤浴・エコタツ体験・昼食：旧八万地獄</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・エネルギーが注目されている今、自然と共存する点に興味が出るのでは。</li> <li>・万人受けするおすすめプログラム。絶対に売れる。</li> <li>・期間限定の体験。ツアーとして“冬”は集客力が少ないので目玉にいい。ただ、今の状態で雨天時には利用できないので半分屋根があればいい。</li> <li>・看板にエコタツ、岩盤浴実施中の案内があれば体験できる。</li> <li>・“食”はツアーの火付け役。地獄蒸しはここでしかできない体験のひとつ。</li> <li>・地獄蒸しは大会には出られないB級グルメ。特にエコタツに入るといのは他にはない。</li> </ul> <p>○地獄の恵みめぐり：雲仙温泉街</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・気がひけて入れないホテルや旅館を見学でき、値段設定を知ることができよかった。</li> <li>・共同浴場も案外売りになる。</li> </ul>
<p>見直しが必要なこと</p> <p>見直し方針</p>	<p>○コース設定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・時間が長く、全体的に歩きすぎた上、同じ場所（地獄）を2回訪れたことは、精神的にも肉体的にもきつかった。</li> <li>・地獄は1度だけとし時間を短くするか、もしくは「湯守～だんきゅう風呂～雲仙焼」までのコースと「さるふぁ～足湯～観光ホテル」のコースの2つから選べるといい。</li> </ul> <p>○ガイドについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・質問できる時間をとってもらえるといい。</li> <li>・毎回、加藤社長がガイドできるわけではないので、ガイドを育てることも必要。</li> </ul>

	<p>○旧八万地獄で岩盤浴・エコタツ体験・昼食：旧八万地獄</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・岩盤浴は気持ちいいけど、ひとりはもちろん友達とでも利用するのは恥ずかしい。<u>入口に「エコ岩盤浴実施中」などの看板がほしい。</u></li> <li>・この時季、この天候だから成立したツアーだと思った。真夏・真冬・雨天では難しいと感じた。</li> <li>・ホテルから毛布を持っていくための大きな袋があると良い。<u>使い方や返却お方法等の説明も入れてほしい。</u>そうすればセルフで体験できる。<u>風呂敷にセットを包み、風呂敷きで上着を包んで枕にするのはどうか。</u>これらを500円でホテルで貸出。</li> <li>・旧八万と地獄蒸し場が少し遠かったので、冷える。また、ただエコタツに入っているだけでは何もやることなく戸惑った経験がある。<u>近くに蒸し場があるといいのでは。</u></li> <li>・昼食の提供の方法をもっと工夫した方がいいと思います。<u>蒸し釜の近くでつまみ食いでいいのでは？</u></li> <li>・おすいものがほしい。汁ものは食事に必須。</li> </ul> <p>○地獄の恵みめぐり：雲仙温泉街</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・湯元ホテル<u>（洗える）</u>と共同浴場の順は逆がいい。</li> <li>・共同浴場に小さい石けんがほしい。<u>（有料販売）</u></li> <li>・ツアーの最後にお風呂を紹介して解散し、<u>入浴を選択制</u>にすれば、入れない人や入りたくない人は入らないという選択もできる。</li> <li>・足湯の縁にベンチがほしい。くつの着脱がしやすくなるのと入らない人の見学用にできる。足湯の内側の段は要らない。</li> </ul>
--	--

### 【コース全体を通しての考察（各班のワーキングメンバーより）】

「湯守が魅せる あなたの知らない地獄コース」では温泉をテーマに回りました。源泉が雲仙地獄から浴槽に入るまでの苦労話や“爛付け”の仕組みや雲仙地獄のエコ機能などについて、江戸時代より温泉を守っている湯守にお話を聞き、温泉に入る有難みを再認識しました。また、火山の恵みである地熱を利用し旧八万地獄で岩盤浴を体験をしました。そこでは、約20分ほどの時間でしたが、寝てしまうほど心地よい時間を過ごす事ができました。そこでは、雲仙地獄で蒸した温泉蒸し料理をエコタツに入って食すことができ、雲仙に滞在するにはとても良いプログラムでした。

昼食後、雲仙の中にある温泉を巡り、午前中のお話もあったので、別の角度で温泉を見ることが出来て普段よりも気持ちよく温泉に浸かる事ができました。温泉巡りの途中では、温泉街を歩いてみないとわからない魅力を発見することができ、街歩きの重要性を再認識しました。

今後は、1日中歩いたせいか疲れが残ったので、商品化に繋げるにはコースの見直し・短縮化を計り一般の方でも楽しめる街歩きが出来るようにすれば良いと思います。また、雲仙の魅力として岩盤浴や温泉蒸し料理など今までになかった新たな魅力を打ち出すことで、滞在を促進させ雲仙の活性化に繋がれば良いと思いました。

b) 南島原コース「封印された歴史の真実 蘇るロザリオコース」

【当日の流れ】

時間	研修内容	場所
10:00	<b>開会</b>	<b>お山の情報館別館</b>
~10:30	・主旨説明 ・1日の流れ	
10:30~11:00	<b>移動</b>	
11:10~11:30	口之津港が見える高台	
11:40~12:00	南蛮船来航の地	
12:00~12:30	移動	
12:30	<b>昼食</b>	<b>保健センター</b>
~13:30	・南有馬 (or 有家) の生活改善グループの方々による食のおもてなし	
13:00	<b>封印された歴史の真実を探る</b>	<b>北有馬</b>
~15:30	日野江城跡の船着き場 階段遺構 金箔瓦発見された場所 遠藤周作がのぼった道 日野江城本丸跡 有馬ゼミナリヨ跡	
15:30~16:00	<b>移動</b>	
16:00	<b>意見交換会</b>	<b>お山の情報館別館</b>
~17:00		

高台から口之津港全体を見渡し、口之津港より入ってきた南蛮貿易で栄えた文化を想像。また地元の方の話を聞き、日本では4校しかない船員学校があることも知る。

昼食では、地元の方が料理した地元の方が普段食す「じゃがだご（団子）汁」や「押し寿司」をいただいたほか、サツマイモやミカンなど旬の素材を味わう。

昼食後は日野江城跡に行き、城跡の広さに圧倒され、そこには今でも掘り尽くせないほどの埋もれた宝が沢山あるという話を聞き、また有馬晴信が残した栄華を極めた宝のひとつ「ゼミナリヨ」では、キリシタンの陽の歴史の一部を垣間見た。



南蛮船来航の地の石碑



盃状穴石（死者の再生と豊穡を願う古代人の信仰の祈り石といわれている）



地元の方の手作り料理をいただく



セミナリヨ 22 人のモニュメント 隠れキリシタン碑ともいわれる青面金剛像



普賢岳・雲仙・日野江・原城を結ぶ方向石（ドンク岩）



日野江城跡をガイドと散策

【モニターツアー後の意見交換（参加者より）】

- ・地元の方も資源のもつ価値や魅力に気付いていない未開発の資源が豊富にある。今後は、それらの資源を活かしたプログラムの開発、商品化に期待が持てる。
- ・ひとつの資源をじっくりと見せるストーリーを作ることも重要。また、それが可能な資源が豊富にある。
- ・南島原の豊かな「食」の文化を活かしたプログラムの提供等に期待したい。

下線は提案等

<p>良かったこと</p> <p>さらに良くするためのアイデア</p>	<p>○コース設定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・タイトルの「封印された歴史の真実」には魅かれた。</li> <li>・<u>キリシタンの陰の歴史と陽の歴史があった地域であることをもっとアピールできると良い。</u></li> <li>・おいしいもの、いいものがあることを、まずは来てもらって、知ってもらわなければならない（もっと地域の資源を活かせるはず）</li> <li>・調査中の日野江城跡では、<u>発掘そのものを観光のムーブメントにできるとおもしろいのでは？</u></li> <li>・コース散策の途中に、その地域ならではの食事ができたのはよかった。</li> </ul> <p>○ガイドについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>ガイドの方に、行きのバスとかで、目的地に到着するまでにあらすじ等説明してもらえると良い。</u></li> <li>・<u>コースを回るのに全体がわかるおおよその資料があれば、もっと理解が深まったかも。手元に残るものがあると他の人にも紹介できる。</u></li> </ul> <p>○封印された歴史の真実を探る：北有馬</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日野江城の発掘調査が進み、もっと観光資源として磨かれてくれば半島一の観光地になる。</li> <li>・口之津の海上技術学校は、日本全国から生徒が集まり、今も残っているのがすばらしい（海や船員の歴史が詰まっている）。</li> <li>・セミヤリヨや日野江城跡は、キリシタン迫害の歴史の前に華やかな時代があった証。</li> <li>・日野江城跡の広さは圧巻。ここにはまだまだ掘りつくせない、埋もれた宝がたくさんある。</li> </ul> <p>○昼食</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・だご汁については、じゃがいもがある時期はじゃがいも、ない時は米など季節によって素材を変えている。</li> <li>・じゃがだご汁おいしかった。</li> </ul>
<p>見直しが必要なこと</p> <p>見直し方針</p>	<p>○コース設定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コース名と中身のギャップがあった（ロザリオの説明は最後にさらっと触れられただけ）。<u>コース名の説明をしっかりとガイドに伝え、ガイドが内容についてボリューム、説明内容の絞り込みをしてもらうことが必要。</u></li> <li>・<u>さるく博的なものを半島もできればいい。</u>（つながれるような理解しやすいような巡り方）</li> </ul> <p>○ガイドについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・青面金剛像は、基礎知識がなく「？」が多すぎて、説明されてもピンとこなかった。</li> <li>・<u>地域の人はずごいと思っても、外の人がピンとこない点は指摘した方がいい。</u></li> <li>・ガイド自身が、多くのガイド経験があるわけではないため、ガイドすることに慣れてないように見受けられる。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人やもので良いものがたくさんある（原石）のに、活かしきれていない。</li> <li>○口之津港が見える高台・南蛮船来航の地</li> <li>・「港が見える高台」が公民館の裏のようなところであったため、場所的に魅力的でなかった。</li> <li>・<u>高台から見て解説を聞いたあとに直接現地（口之津）に行ってみたかった。</u></li> <li>・<u>船員さんの学校（日本で4つのうちの1つ）に行ってみたかった。</u></li> <li>・「長く美しい通り」は、現代の整備されてしまった通りを見てもちょっとピンとこなかった。（ガイドなしでは場所の価値がわからない。）</li> <li>○昼食</li> <li>・<u>食べられる場所はないが、婦人会の方にお問い合わせすれば、800～1,000円で作ってくれるようだが、今日のようなメニューをもっと気軽に提供できるようになる</u> <u>といい（コースに組み込むなど）</u></li> <li>○封印された歴史の真実を探る：北有馬</li> <li>・すごい歴史を持つてるのにもったいない。地元の人、地元の外（周辺地域）の人にも、まだまだ魅力が伝わっていない（知らない）のではと感じた。</li> </ul>
--	---

### 【コース全体を通しての考察（各班のワーキングメンバーより）】

「封印された歴史の真実 蘇るロザリオコース」では、口之津港より入ってきた南蛮貿易で栄えた文化を学びました。口之津港では、全体が見渡せる高台に行き、日本では4校しかない船員さんを育てる学校があり、今も残る歴史を感じる事ができました。昼食では、地元の人が料理した地元の人が食べる「じゃが団子（だご）汁」「押し寿司」を食べる事が出来、また、サツマイモやミカンなど旬の食べ物もおしくいただきました。

昼食後は、日野江城跡に行き跡地の広さに圧巻され、そこでは今でも掘り尽くせないほどの埋もれた埋蔵文化財が沢山あるという話しを聞きました。このような埋蔵文化財の発掘体験などを、観光のムーブメントに出来ると、非常に面白いと思いました。また、有馬晴信が残した栄華を極めた宝の一つの「セミナリヨ」では、キリシタンの陽の歴史の一部を垣間見る事ができました。

今後は、人やもので素晴らしい資源が沢山あるので、ガイドの拠点や育成など充実を計り、一人旅でも楽しめるコースになれば、より多くの方に訪れていただける地域となると思います。

c) 島原コース「旧島原藩に学ぶ 薬草学と木蠟づくり体験コース」

【当日の流れ】

時 間	研修内容	場 所
10:00	<b>開会</b>	<b>お山の情報館別館</b>
~10:30	・主旨説明 ・1日の流れ	
10:30~11:20	<b>移動</b>	
11:20~12:20	薬草学 ・薬草を学び食す	<b>旧島原藩薬園薬草園</b>
12:20~12:40	移動	
12:40	<b>昼食</b>	<b>本多木蠟製作所</b>
14:00	・ナタネ油を使って、島原半島の旬の食材を使った天ぷら	
14:00	<b>和ろうそくづくり体験</b>	<b>本多木蠟製作所</b>
~15:30		
15:30~16:00	<b>移動</b>	
16:00	<b>意見交換会</b>	<b>お山の情報館別館</b>
~17:00		

薬草学と木蠟づくり体験が中心のコース。

薬草学では、旧島原藩薬園薬草園に訪問し、身近な薬草のタンポポやウイキョウのお好み焼きを食べるといった驚きの体験から、薬草に対する知識を学ぶ。

昼食は、本多木蠟で天ぷらやうどんなどをご主人たちと一緒に食べ、民泊体験のような体験を経験。また本多木蠟では、「生きた博物館」ともいえる古い姿のままの作業場を見学し木蠟づくり体験を行う。

時期的に、木蠟の原料となるハゼの木の収穫時期にあたったことから、タイミング良く収穫作業も見学した。



旧島原藩薬園薬草園で薬草の話を聞く



薬草(ウイキョウ)、実食





薬草のお好み焼き



薬草を使ったムース



和ろうそくづくり体験



木蝋



木蝋の原料となるハゼの木の収穫風景



古き良き工場

【モニターツアー後の意見交換（参加者より）】

- ・薬草園、本多木蠟製作所ともに観光客への見せ方、伝え方を工夫することで、魅力あるプログラムになる可能性が高い。
- ・また、「ジオ＝火山」と「歴史」という視点を踏まえた伝え方をすることで、コースとしての魅力が増す。
- ・その場合、ターゲット（女性や中高年の男女がターゲットになり得る）を絞り商品として磨きあげていくことが必要になる。

下線は提案等

<p>良かったこと</p> <p>さらに良くするためのアイデア</p>	<p>○薬草学：旧島原藩薬園薬草園</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・薬草園も本多木蠟もたいへん興味深い。</li> <li>・一人ではなかなか行けない薬草園に行けた。初薬草園。</li> </ul> <p>・薬草を実際に食べれる点。薬草をいろいろな形で食べられたことが印象的。（薬草お好み焼き、薬草ムースもおいしかった）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食べられる草が身近にもっとありそう。</li> <li>・薬草を身近に感じられてよかった。</li> <li>・食べることでセットになっているところがよかった。</li> <li>・日本三大薬草園で、島原半島が薬草に力を入れる理由がわかった。<u>もっとバス内で背景（説明）が必要。</u></li> </ul> <p>○昼食：本多木蠟製作所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハゼの収穫が見れた。（時期が良かった）</li> <li>・木蠟所でプチ民泊体験ができた。（ゆっくり生活にひたれた）</li> <li>・活きた博物館！きれいすぎず、また古い道具が使われているのが特に良い。</li> </ul> <p>○和ろうそくづくり体験：本多木蠟製作所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・和ろうそくは思ったより簡単にできた。<u>ハゼの実からの蠟分の抽出から見せてもらえるのもっといい。</u></li> </ul>
<p>見直しが必要なこと</p> <p>見直し方針</p>	<p>○コース設定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>薬草園に行くなら、葉や実がある季節が良い。</u></li> <li>・「ジオ＝火山」→「島原藩の歴史」の説明から始めたら良い。そこから、薬草園や、ハゼ・和ろうそくの説明をする。</li> <li>・<u>ターゲット設定が必要。ターゲットは女性や中年の男女。</u></li> <li>・<u>雲仙発着である理由を検討する必要有り。</u></li> </ul> <p>○ガイドについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体験をしてから説明するのではなく、<u>説明してから体験するほうがより楽しめる。</u>（特に、薬草園）</li> <li>・事前のアナウンス不足。これからどうする、何時までどうする、という<u>事前のアナウンスが必要。</u></li> <li>・<u>ペーパー資料がない。</u> Ex. コースの概要、Map など</li> <li>・移動中の解説がほしかった。</li> </ul> <p>○薬草学：旧島原藩薬園薬草園</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・畑に植物がもっとほしい。</li> <li>・<u>見せる順番として、薬草園の説明→薬草を見せる（冬でもかまわない）→薬草の解説（もっと詳しく知りたい人には、薬草の本を売るようにする）が良い。</u></li> <li>・薬草園では、「何をどこで見るとおもしろいか」がわからないとただ歩くだけ。<u>薬草園内の見学は説明がもっと必要。</u>（歴史的な背景、A（薬草）がB（症状）に効くではなく、B（症状）にはAやC（薬草）が効くという説明のほうが良い）。</li> <li>・これからの展開に期待。今のままでは看板もストーリーも不十分。</li> </ul> <p>○昼食：本多木蠟製作所</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・木蠟所で扱っている油で料理を食べたかった。</li> <li>・副業で残そうとしているが、今後の存続が心配。</li> <li>・工場・機械が残っているのがすごい。今でも動く！！今後どのように残すか、市の支援が必要。</li> </ul> <p>○和ろうそくづくり体験：本多木蠟製作所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ろうそく作りが簡単なところがよかったり悪かったり。子どもには良いが、大人には、<u>もっと難易度をあげた体験、“作りごたえ”を用意する必要がある。</u></li> <li>・体験プログラムが間延びするので、<u>工作をする、薬草を使っててんぷらを揚げるなどのコンテンツを工夫する必要がある。</u></li> <li>・店構え自体にお客さんを迎え入れる感じがしない。今後、<u>体験プログラムを提供するのであれば、もう少し気軽に入れるような店構えにも工夫が必要。</u></li> </ul>
--	--

### 【コース全体を通しての考察（各班のワーキングメンバーより）】

「旧島原藩に学ぶ 薬草学と木蠟づくり体験コース」では薬草学と木蠟づくり体験をしました。薬草学では、旧島原藩薬園薬草園に訪問し、初めは薬草と聞いて苦いのではといったイメージがあったが、身近な薬草のタンポポやウイキョウのお好み焼きを食べる事が出来たことで、薬草に対して、健康と自然に対してのイメージが繋がりました。

昼食では、本多木蠟さんで天ぷらやうどんなどをご主人たちと一緒に食べ、民泊風の体験が出来、よかった。また、本多木蠟では、古い姿のままの活きた博物館のような作業場を見学し、また、木蠟づくり体験も行った。この時期の見学であったことで、木蠟の原料となるハゼの木の収穫作業も見ることが出来、よかった。

今後は、薬草学、木蠟ともに必要と感じたのは、「ジオ＝火山」と「歴史」という視点を基調として、伝え方を捉えなおすことで、コースとしての魅力が増すと考えています。また、ターゲットを絞るなどして商品として磨きあげていくことや、貴重な資源を守り伝える支援の必要性を感じました。

#### d) 共通の課題

- ・ 出発前や要所要所で、コースの流れやコース全体のあらすじ、見どころを簡単に紹介してくれるとイメージしやすい。各コースA 4片面程度の資料を作成し事前もしくはスタート時に配布すれば、よりコースへの興味が湧く。
- ・ 今回は、各コース15名の定員でなおかつ旅行者なども募集対象になっていたのも、一般人としては遠慮したほうが良いかと思った。各コース30名程度の定員であれば、旅行者が対象に含められていても臆することなく申し込めた。また、手作り感のあるチラシだとなお良い。お洒落すぎても申し込みに躊躇してしまう。

各コースともに、お互いの地域でまだまだ知らないことがたくさんあること、自分の住む地域に人を感動させる資源が眠っていることを確認ただけでなく、資源の商品化の可能性を見出すことができた。特に雲仙コースにおいては、岩盤浴やエコタツ、地獄蒸しなどがツアー商品としての価値が高く評価された。また、今回は募集方法に問題があったが、参加者の方の話によると、こうしたモニターツアーに参加したいと考えている一般の方も多いものとみられ、モニターツアーの魅力も高く、今後の継続が課題といえる。

### 3) 島原半島交流ブース展示

島原半島内外から様々な分野、立場の方が集まる「雲仙プラン100発表シンポジウム」を島原半島で活動する団体等の発表、交流の場としても提供しようと「島原半島交流ブース展示」を開催。

ワーキングメンバーが中心となって半島内の関係者に広く呼びかけを行い、特産品販売、活動紹介を行う14団体が出展したほか、雲仙プラン100プロジェクトの成果報告を行った。また、地元でじゃがいもなどを生産する農家でシンガーソングライターの中村惣氏によるミニライブが催され、島原をテーマにしたオリジナルソングが披露された。

#### ① 島原半島交流ブース出展募集要項

##### a) 呼びかけ文

雲仙プラン100プロジェクトでは、雲仙地域の再生・島原半島の活性化を目標に「雲仙プラン100」の策定を行いました。その発表の場として標記のシンポジウムを開催いたします。当シンポジウムでは「島原半島が一体となった取り組みの強化」を1つの柱と考え、島原半島のあらゆる資源の保全や活用、地域特有の産業の活性化に関して地元の企業・各種団体、活動グループの方々の日頃の活動やお考えになっていることを広くご紹介頂く場を設けさせていただき、お互いの交流につなげたいと考えております。

つきましては、下記の要領にて、島原半島交流ブース出展への参加希望の有無をお知らせ下さい。雲仙や島原半島の住民、島原半島三市の地域づくり及び観光関係者など、多くの人々に貴団体の活動内容やご意見を知らせるチャンスと考えられます。また、お互いの取り組みへの賛同者・協力者を得る場にしたいとも考えております。奮ってご参加下さいますようご案内申し上げます。

##### b) 開催概要

【開催日時】 平成23年12月11日（日）12：00～17：00

【集合場所】 雲仙メモリアルホール

【出展費用】 無料

c) 募集要項

**島原半島交流ブース出展者募集要項**

各位

雲仙プラン100プロジェクト

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

雲仙プラン100プロジェクトでは、雲仙地域の再生・島原半島の活性化を目標に「雲仙プラン100」の策定を行いました。その発表の場として標記のシンポジウムを開催いたします。当シンポジウムでは「島原半島が一体となった取り組みの強化」を1つの柱と考え、島原半島のあらゆる資源の保全や活用、地域特有の産業の活性化に関して地元の企業・各種団体、活動グループの方々の日頃の活動やお考えになっていることを広くご紹介頂く場を設けさせていただき、お互いの交流につなげたいと考えております。

つきましては、下記の要領にて、島原半島交流ブース出展への参加希望の有無をお知らせ下さい。雲仙や島原半島の住民、島原半島三市の地域づくり及び観光関係者など、多くの人々に貴団体の活動内容やご意見を知らせるチャンスと考えられます。また、お互いの取り組みへの賛同者・協力者を得る場になりたいとも考えております。奮ってご参加下さいますようお願い申し上げます。

敬具

記

1. シンポジウム開催要領:別紙をご参照ください。
2. 企業・団体・グループ等による情報発信、島原半島交流ブースの内容
  - (1) 日程について
    - ・ 開場設営時間: 12月11日(日)11:00~12:00
    - ・ 展示開催時間: 12月11日(日)12:00~17:00
    - ・ 片付作業時間: 12月11日(日)17:00~18:00 ※この後、懇親会も有
  - (2) 当日会場内におけるポスター掲示やチラシ・パンフレット類の配布について
    - ・ ポスター類やチラシ・パンフレット類は、当日開場前にご持参頂くこととします。
    - ・ 長机二本 (横向き前後二列、展示スペースは机横幅に準じます)
    - ・ パネルサイズ:幅 1m15cm×高さ2m
    - ・ パネルの割り当ては、1団体につき1枚(片面のみ)
- ※上記備品の追加依頼等がございましたら別途ご相談下さい(加藤隆太まで)
- (3) 当日会場内での飲食物の販売・試食について
  - ・ 食品・食器・備品に関しましては、すべてご持参ください。
  - ・ 会場内での火器の利用はできません。但し、電気機器による加熱はできます。必要アンペア数をお伝えください。また、火器を利用した調理が必要な場合は調理場を準備します。別途ご相談下さい(090-8042-4963 加藤隆太まで)。
3. 島原半島交流ブースへの参加方法
  - ・ 平成23年12月5日(月)までに別添用紙に必要事項を記入の上、FAX(もしくはTEL)にてご返信ください。
  - ・ **お申込先** 雲仙プラン100プロジェクト事務局(株式会社メッツ研究所)  
**FAX03-3371-6245 TEL03-3371-6310**(佐藤、菅まで)

## ② 開催結果

島原半島交流ブース展示には、以下の団体等が出展した。

- J A小浜青年部
- 農事法人組合サンエスファーム
- 島原半島世界ジオパーク～第5回ジオパーク国際ユネスコ会議～
- 雲仙市物産販売促進協議会
- エタリの塩辛愛好会
- 雲仙こぶたかな守山女性部
- 雲仙古湯商店街周辺地区ファサード整備事業
- 雲仙お山の情報館
- 雲仙女将の会
- 雲仙飲食店組合
- 雲仙富貴屋
- ホテル東洋館
- 半島を渡る子供たちプロジェクト
- 雲仙プラン100地域づくり委員会



出展した14団体は同じ島原半島内に拠点を置いているものの、お互いの活動を知る機会は少なく、今回出展したことによってお互いの活動を知ったという声も出展者から聞かれた。またそれぞれの取り組みを熱心に聞く姿もみられ、他の活動が刺激につながったようである。